

■巨勢奈弓麻呂 公卿。70歳直前に参議となり、80歳過ぎに没するまで現役。奴婢203人を解放した。

こせのなてまる

庚午年籍・・・ 670= 生。巨勢大海の孫。巨勢比等の子。

壬申の乱・・・ 672= 2歳：壬申の乱で、父比等は近江方將軍だったため、敗戦後、父に従い配流地に向かったと思われる。

・・・・・・ 679= 9歳：

天武天皇没・ 686=16歳：

・・・・・・ 688=18歳：

薬師寺三尊像 697=27歳：

持統天皇没・ 702=32歳：

・・・・・・ 706=36歳：

平城京遷都・ 710=40歳：

元正天皇即位 715=45歳：

藤原不比等没 720=50歳：

聖武天皇即位 724=54歳：

長屋王の変・ 729=59歳：正六位上から外従五位下に昇叙されて、*歴史に登場すると、

・・・・・・ 731= 61歳：外従五位下から従五位下に昇叙され、

風土記成立・ 733=63歳：以後は順調に昇進。

・・・・・・ 736=66歳：正五位下、

藤原四卿没・ 737=67歳：早くも従四位下に達し、

・・・・・・ 739=69歳：*参議として議政官の地位に就いた時にはすでに民部卿・春官大夫の要職を兼ねていた。

国分寺建設詔 741=71歳：従四位上から、左大弁・神祇伯を兼ね、正四位上。橘諸兄政権下にあつてしばしば臨時の使官としても起用され、河内・摂津国境紛争の解決、智努王とともに恭仁京造営にあたり、

壘田永世法・ 742=72歳：従三位に達し、この年以降繰り返された聖武天皇の行幸に伴う留守司官を務め、

大仏造立詔・ 743=73歳：藤原豊成とともに、中納言に昇任、

・・・・・・ 744=74歳：遷都について市中に派遣され民意調査するなど、徐々に頭角をあらわし始めていた年少の藤原仲麻呂とともに事に当ることも多い。

行基初大僧正 745=75歳：久しく訴訟の対象だった奴婢200余名の訴えを停め、良民化を奏して許される。

・・・・・・ 746=76歳：公卿参内の際に中納言として同行し、詔に応じて作歌。鎮撫使が再置され、北陸・山陰道鎮撫使。

・・・・・・ 748=78歳：正三位、

孝謙天皇・・・ 749=79歳：東大寺行幸に際し、従二位まで進み、官職も*大納言に昇り、

懐風藻・・・ 751=81歳：安閑朝の大臣「巨勢男人」の氏の名を誤記によるものとし「雀部(さざきべ)」に訂正すべしと訴えた雀部真人のために巨勢氏としてみずからも証言して認められる。

大仏開眼・・・ 752=82歳：「万葉集」に「新嘗会の驛宴にして詔に応ふる歌6首」のうち1首を載せる。

・・・・・・ 753=83歳：*現役のまま、没した。

平凡社百科事典、